

来て!見て!知って!文化財

切れ所と中の洲

荒川の歴史を記憶する名勝 小泉・小八林

熊谷市の大里地域に所在する「切れ所」(小泉地区)と「中の洲」(小八林地区)は自然地形の変遷を現在に残す貴重な遺産であることから、熊谷市の記念物(名勝)として文化財指定されています。共に明治10年代以降の度重なる荒川洪水の破堤により形作られた池であり、堤防を破った水が上壤を抉り取り、押し出した場所に水が留まったことから、「押堀」とも称されています。

「切れ所」は、昭和13年の洪水の際に現在の形へと拡大した経過を辿り、屈曲した沼地の線が残されているなど保存状態が良好です。面積は7,200㎡を数え、荒川右岸に残されている押堀の中では比較的大きい規模を誇ります。また、「中の洲」は大芦橋に隣接した場所にあり、生成当初より規模が小さくなりましたが、4,900㎡を数え安定した水量

を維持しています。現在では、この二つの池はヘラブナ釣りの名所として、市内外から多くの人々が訪れています。

なお、「切れ所」は、平成25年に文化庁が刊行した「名勝に関する総合調査」において重要事例に指定されており、貴重な自然的遺産として評価されています。荒川の歴史と深いつながりのある二つの名勝を未来に残すため、景観や環境の保護を継続的に行っていく必要があります。

◆江南文化財センター ☎048-536-5062



切れ所



中の洲